


平成20年2月1日
新日本ブラス株式会社



化学物質管理と
リスクコミュニケーション

新日本プラス(株)のプロフィール

- **創 業**: 1961年(昭和36年8月)
- **資 本 金**: 1億円(DOWAメタルテック100%子会社)
- **従業員数**: 90人(平成19年12月現在)
- **生 産 量**: 黄銅棒生産量9000t / 年
(国内シェア3.5 ~ 4%)
- **事業概要**: 黄銅棒(一般棒・異形棒)の製造をはじめ、鍛造品、切削加工品、鍛造用金型等を生産。原料から製品までの一貫製造メーカー。

新日本ブラス(株)の沿革

- 昭和36年 8月 黄銅棒の製造販売を目的として設立
- 昭和56年 4月 鍛造品・本格操業開始
- 平成 2年 5月 中空鍛造機(7号機)導入
- 平成 3年 3月 切削加工工場建設
- 平成 9年 3月 中空鍛造機(8号機)導入・品質管理棟建設
- 平成12年10月 鍛造・化学研磨ライン自動化
- 平成16年 3月 ISO9001(2000年版)を取得
- 平成18年 1月 ISO14001認証取得
- 平成18年 4月 TPM導入宣言
- 平成18年 8月 新鍛造機(9号機)導入
- 平成19年 6月 タッピングセンター加工機導入

主な製造品と用途

快削黄銅棒
鍛造用黄銅棒
異形棒



写真は異形断面快削黄銅棒

鍛造加工品



LPGガス用バルブ

切削加工品



サーモスタット用部品

自動車、情報通信機器、精密機器
住宅分野

ガス・水機器部品

電気機器部品

自動車部品、調度品等

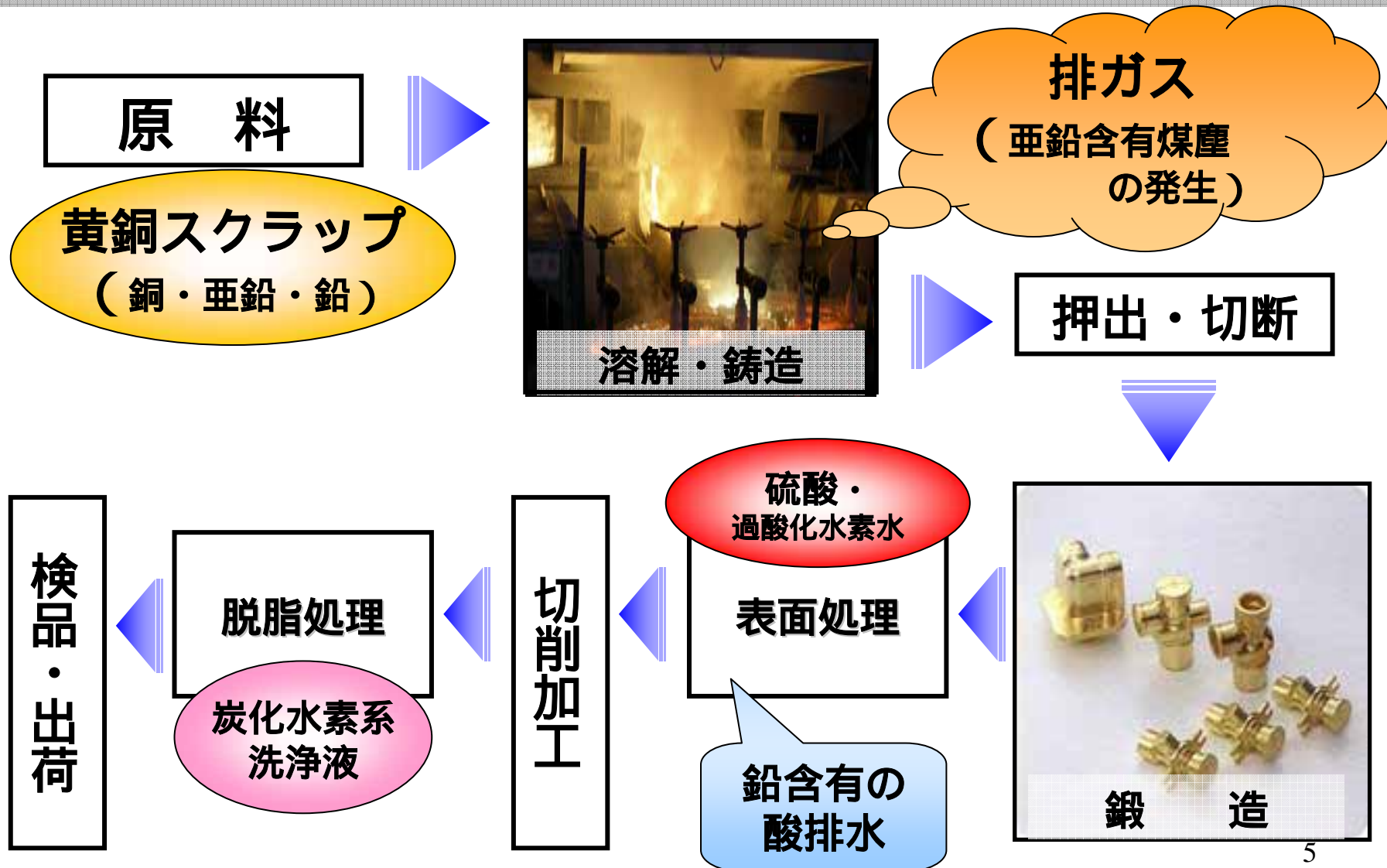
自動車、家電、情報通信機器、精密機器分野
精密機械のシャフト、軸受け、ノズル等

新合金

RoHS対応Cdレス材 Dシリーズ
高耐食性高強度黄銅(耐脱亜鉛材) SDN-B
鉛レス黄銅 Fシリーズ

給・排水、給湯機器等接水バルブ類
スプリンクラーヘッド等防災機器

製造工程中の化学物質排出・使用状況



環境基本理念

企業活動を行なっていくためには品質面はもとより**環境への積極的な取組み**が重要であると認識し、ISO14001を平成18年1月に取得しました。

ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムの構築により、より良い環境づくりを目指しています。

◆基本理念

新日本プラス株式会社は、環境問題を経営の最重要課題としてとらえ、克服していかなければならない事を認識し、事業活動の目的遂行にあたり**環境保全との調和に配慮し、社会への貢献**を目指して活動します。

環境方針

1. 事業活動に起因する環境負荷の低減を図る為、省資源・省エネルギー・廃棄物の管理と低減を図り、環境汚染の予防に努めます。
2. 地域社会とのコミュニケーションを図り、自然環境への影響に配慮し環境汚染防止に努めます。
3. 環境関連の法令、規則、条令及びその他要求事項を順守します。
4. 環境方針達成の為、環境目的・目標を設定し、環境保全活動を推進するとともに、定期的に見直し、継続的な改善に努めます。
5. この環境方針を全従業員に教育を実施し周知徹底を図ります。また外部に対しても公表します。

主な化学物質削減の実施成果

■ 製品洗浄に伴う酸性排水の発生量削減

- ・製棒硫酸の削減 (H18年度136.1g/L 67.0g/L)
- ・製棒過硫酸アンモニウム の削減 (H18年度9.5g/L 7.5g/L)
- ・鍛造硫酸の削減 (H18年度9.31g/L 9.00g/L)
- ・鍛造過酸化水素水の削減 (H18年度比12.37% 11.36%)

■ 省エネルギー

- ・ロータリーキルン燃料の削減 (H18年度850L/月 641L/月)
- ・押出加熱炉灯油の削減 (H18年度3.8L/本 3.6L /本・ビレット)

化学物質管理への取組み・その1

- 切粉原料ヤードを屋外から
屋内へ移設
 - 切粉の雨水による流出防止



- バグフィルターによる回収
 - 大気への亜鉛を含む煤塵の
排出防止対策

化学物質管理への取組み・その2

● 製品洗浄液の濃度管理

- 硫酸・過酸化水素の濃度の最適化による、使用量の削減



● 鍛造離型剤油性ミストの回収と削減

- ミスト回収装置の設置による回収による削減



化学物質管理への取組み・その3

- 排酸タンクの新規更新及び
防液堤の新設
➤ 排酸の漏洩防止



- カドミレス材、鉛レス材の製品化
➤ 環境保全と製品の高付加価値化



化学物質管理への取組み・その4

鉛排出への取組み

- 県条例よりも厳しい排水の自主管理基準値を設定

県条例の排出基準 : 0.1 ppm



自主管理基準: 0.08 ppm

- 排水監視の強化

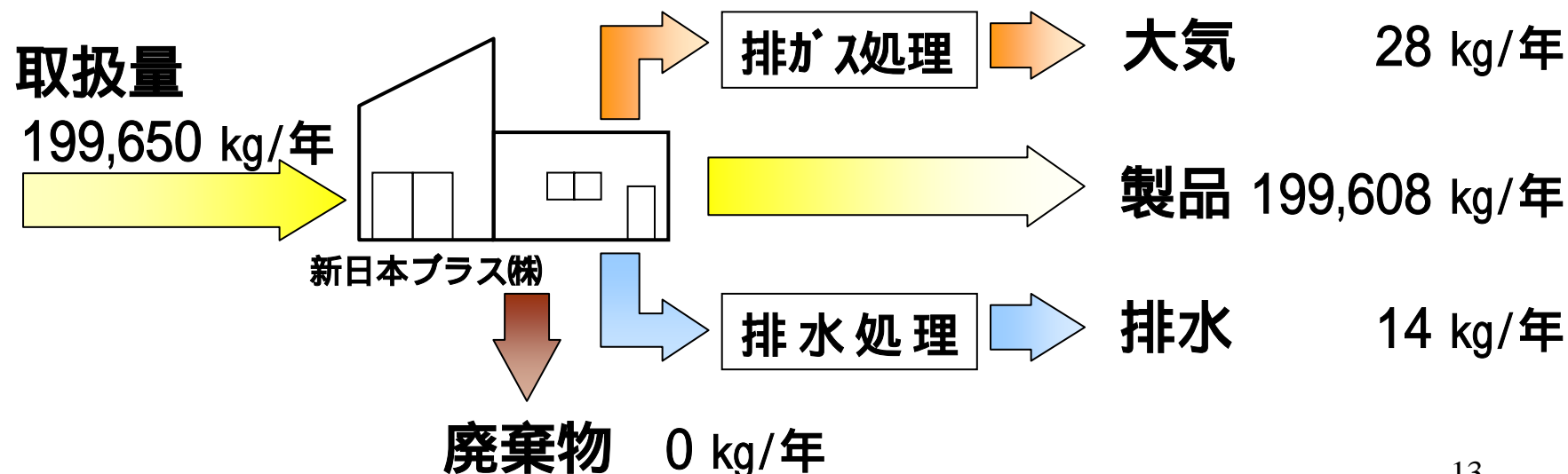
測定機関による測定回数 : 隔月1回



自主測定回数: 毎週1回

PRTR届出状況

- ◆ PRTR届出物質：鉛及びその化合物
 - 黄銅の母材中に約3%の鉛が含有
- ◆ 事業所における「鉛及びその化合物」の取扱量と移動・排出量等(2006年度)



リスクコミュニケーションへの取り組み・その1

● リスクコミュニケーション活動

➤ 年間教育訓練計画に基づき各部門で教育



教育風景・1



教育風景・2

リスクコミュニケーションへの取り組み・その2

● 地域社会とのコミュニケーション活動の実施

- 3ヶ月に1回、工場周辺道路のゴミ拾い及び草刈実施



活 動 前



活 動 後

リスクコミュニケーションへの取り組み・その3

● 緊急事態訓練の実施

➤ 緊急事態訓練実施計画に基づき各職場で実施



灯油タンクの流出



硫酸水の漏洩

リスクコミュニケーションへの取り組み・その4

●「環境対話集会」の開催

➤ 地域住民とコミュニケーションを図るため開催

化学物質による環境リスクについて事業者と地域住民が話し合い、正しい情報を共有するため、「環境対話集会」を千葉県と共同で開催しました。

・日時：平成19年3月21日(水)14:00～15:30

・場所：新日本プラス(株)(千葉県旭市鎌数)

品質管理棟

・主催：千葉県、新日本プラス(株) (協力：旭市)

環境コミュニケーション in ちば

傍聴者用

環境対話集会

【新日本プラス(株)・千葉県共催】

2007年3月21日(水・祝) 14:00~15:30

化学物質に関する環境リスクについて、地域で考える「環境対話集会」を開催します。

千葉県では化学物質対策の一環として、化学物質による環境リスクについて事業者と地域住民が話し合い、正しい情報を共有するための「環境対話集会」を推進しています。本年度は、地域における環境対話集会のモデル事業として、新日本プラス株式会社との共同で、対話集会を開催します。環境対話集会を通じて、企業の取組みの現状や地域の環境リスクなどについて考えていきたいと思えます。

【開催概要】

- 開催日時:2007年3月21日(水・祝) 14:00 ~ 15:30
- 場 所:新日本プラス株式会社 旭工場 品質管理棟会議室
- 主 催:新日本プラス株式会社・千葉県
- 協 力:旭市
- プログラム概要:
 - (1)開会のあいさつ
 - (2)工場概要説明
 - (3)千葉県の取組み
 - (4)環境対話
 - (5)閉 会
- 専門家等:
 - 進行役(ファシリテーター)
大蔵幸男(循環環境情報コミュニケーションズ)
 - 専門家(化学物質アドバイザー)
寺沢弘子



●お申込・問合せ先:
 新日本プラス株式会社 担当:猪狩(いがり)
 〒289-2505 千葉県旭市鎌数 5844-3
 TEL:0479-62-0444 FAX:0479-62-0404

裏面:参加申込書

送付先

FAX: 0479-62-0404

申込期限:2007年3月15日(木)

送付先:新日本プラス株式会社
担当:猪狩(いがり)

新日本プラス(株)・千葉県共催 環境対話集会 (2007年3月21日開催) 参加申込書

- 参加ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX(0479-62-0404)にて、お申込下さい。お電話(0479-62-0444)でのお申込も受け付けます(先着10名まで)。
- 参加費は無料です。申込は先着順で定員(10名)になり次第、締め切らせていただきます。

参加希望の方のお名前・ご所属等

氏名:

会社名(団体名):

部署:

役職:

住所:

電話番号:

FAX番号:

※ 同一企業・団体から複数名のお申し込みをされる場合、参加される方全員のお名前をお願いいたします。(下記にご記入下さい)

氏名:

部署:

役職:

氏名:

部署:

役職:

【申込先/問合せ先】

新日本プラス株式会社 担当:猪狩(いがり)
 〒289-2505 千葉県旭市鎌数 5844-3
 TEL:0479-62-0444 FAX:0479-62-0404

環境対話集会 内容

行政からは千葉県における化学物質管理の方針と取組み、当社からは工場における環境管理などについて説明の後、地域住民の方々と意見交換を行いました。

今回、対話の円滑化を図り中立的な立場から対話を進めるために、ファシリテーターと呼ばれる進行役さらに化学物質に対する正しい知識と情報を提供するために化学物質アドバイザーが同席する形で、活発な意見交換がありました。工場周辺の住民の方々をはじめ、周辺事業所や行政の方々に、事業所における化学物質の管理状況や化学物質の環境リスク低減に向けた取組みについてご理解いただくとともに、事業所に対する貴重なご意見を伺う事ができました。



環境対話集会 工場見学風景



工場見学風景 1



工場見学風景 2



工場見学風景 3



工場見学風景 4

おわりに

当社のこれまでの環境保全への取り組みは環境改善だけでなく、エネルギー多消費型部門のコスト削減となり、収益改善に大きく貢献しています。

また地域とのコミュニケーションとして地域住民と環境対策に関する対話集会を行ったことは、地域の方々の関心やニーズを把握でき、これからの当社の環境への取組みに生かせたと思います。これからも、このようなコミュニケーションの機会を増やし、ステークホルダー(地域住民やNPO)の方々とお互いの認識を深め、社会へ貢献できるよう努めてまいります。